2018 年 1 月 19 日

プレスリリース

株式会社 矢野経済研究所

カーナビ世界市場に関する調査を実施（2017 年）

－カーナビデバイスの多様化とともに 2022 年の世界市場規模は 3,117 万台に拡大－

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内及び世界主要国のカーナビ市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2017 年 8 月～12 月
2. 調査対象：カーナビゲーション、DA（ディスプレイオーディオ）メーカー、自動車メーカー（OEM）、一次部品メーカー（Tier1）等
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mail によるヒアリング、ならびに文献調査併用

＜カーナビとは＞

本調査におけるカーナビは主に乗用車向けであり、自動車メーカー（OEM）が工場で装着するメーカーオプション（MOP）、ディーラーで装着されるディーラーオプション（DOP）、カー用品店等で購入される市販品をさす。また、自動車のインスツルメントパネルやセンターディスプレイに一体して組み込まれる e コクピットを含む。

なお e コクピットとはセンターディスプレイ、クラスタディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ（HUD）等を統合した車載 HMI（Human Machine Interface）システムである。

【調査結果サマリー】

◆ 2016 年のカーナビ世界市場規模は 2,296 万台、前年比 110.3%と順調に拡大

2016 年のカーナビ世界市場規模は 2,296 万 1,000 台で、前年比 110.3%と自動車販売台数の拡大に合わせて伸長している。自動車の魅力向上に、音楽・映像配信などのインフォテインメント（情報・娯楽）システムの果たす役割が大きくなっており、その代表的な存在がカーナビである。今後、世界の自動車市場においてカーナビを含むインフォテイメントシステムの重要性が更に高まっていくものと考える。

◆ カーナビデバイスの多様化

高級車には e コクピット※1、中・小型車には DIN 型カーナビ、アジア地域展開の大衆車や米国の KT 法※2 遵守にはディスプレイオーディオ（DA）※3、新興国ではスマートフォンナビと PND（ポータブルナビゲーションデバイス）といった棲み分けが進む一方で、各国のスマートフォン普及率や政府による大衆車政策などの市場環境等によってカーナビの使われ方が変わる可能性もある。

◆ 2022 年の世界カーナビ市場規模は 3,117 万台までの拡大を予測

世界規模でみると、カーナビ市場はまだ伸び続けており、2022 年の世界カーナビ市場規模は、3,117 万台に拡大すると予測する。純正化の進展や e コクピットへの統合、スマートフォンとの連携など、今後の車載情報端末は e コクピット、カーナビ、PND、DA、スマートフォンナビといった複数の種類の各々の製品が、各国の文化や言語、生活環境といった市場環境や特性を反映しつつ、地域別需要に適合しながら、共存していくものとみる。

◆ 資料体裁

資料名：「2017 年度版　カーナビ／DA／スマホナビ／ITS 車載機市場予測」
発刊日：2017 年 12 月 21 日
体　　裁：A4 判 180 頁
定　　価：150,000 円（税別）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2　代表取締役社長：水越 孝
設　立：1958年3月　年間レポート発刊：約250タイトル　URL: http://www.yano.co.jp/

本件に関するお問合せ先（当社 HP からも承っております　http://www.yano.co.jp/）
㈱矢野経済研究所　マーケティング本部　広報チーム　TEL：03-5371-6912　E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

Copyright © 2018 Yano Research Institute Ltd.

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況 ～順調に拡大するカーナビ世界市場

2016 年のカーナビ世界市場規模は 2,296 万 1,000 台で、前年比 110.3%と順調に拡大した。世界のカーナビ市場は、自動車販売台数の拡大に合わせて伸長している。自動車の魅力向上に、音楽・映像配信などのインフォテインメント（情報・娯楽）システムの果たす役割が大きくなっており、その代表的な存在がカーナビである。自動車に対する消費者の評価において、今後ますますカーナビを含むインフォテイメントシステムの重要性が高まっていくものと考える。

2. 注目すべき動向 ～多様化するカーナビデバイス

カーナビは先進国では自動車メーカー（OEM）による純正化や、e コクピット※1 への統合が中心となっていくと同時に、スマートフォンとの連携の在り方が自動車のヘッドユニット（センターディスプレイやインスツルメントパネル領域）の方向性を左右するものとみる。

高級車には e コクピット、中・小型車には DIN 型カーナビ、主にアジアで展開されている大衆車や米国の KT 法※2 遵守にはディスプレイオーディオ（DA）※3、新興国ではスマートフォンナビと PND（ポータブルナビゲーションデバイス）といった棲み分けが進む一方で、カーナビや DA によるスマートフォン連携も進んでおり、各国のスマートフォン普及率や政府による大衆車政策などの市場環境等によってカーナビの使われ方が変わる可能性もある。

また、スマートフォンの普及率が高まるにつれ、スマートフォン用ナビゲーションアプリが PND の市場のある程度を代替しつつある。こうしたなか、車載機とスマートフォンとの連携機能の最適バランスが模索されている。

※1 e コクピットとは、センターディスプレイ、クラスタディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ（HUD）等を統合した車載 HMI（Human Machine Interface）システムである。
参考資料：「e コクピット世界市場に関する調査を実施（2016 年）」（2017 年 1 月 23 日発表）
https://www.yano.co.jp/press/press.php/001645
※2. 米国では駐車場などで自動車が後退する際の子供を含む歩行者の事故防止のため、後退時の後方確認として、すべての新型車に 1 台以上のリアカメラとその映像を見るためのモニタ（DA やバックミラーモニター）の搭載を義務付ける法、KT（Kids Transportation Safety Act）法があり、2018 年に完全施行が予定されている。
※3. DA（ディスプレイオーディオ）とはナビゲーション機能をもたない「ディスプレイ＋AV 機能」デバイスである。

3. 将来予測 ～2022 年には 3,117 万台に拡大

2022 年のカーナビ世界市場規模は、3,117 万台に拡大すると予測する。小型車への浸透に加え、高級車では純正化や e コクピットへの統合が進展するものとみる。一方で、カーナビの代替候補である PND は、スマートフォンナビに浸食されて大きく縮小する見通しであるが、スマートフォンの普及拡大は、カーナビと DA のスマートフォン連携といった新たな需要分野としても成長が期待できる。

また、カーナビの価格低下傾向は、世界的に見られ、参入企業間の競争により厳しさを増している。ただし e コクピットのような走行系連携のハイエンドシステムは主に高級車に搭載され、先進国を中心に成長していくと予想する。

その他の新興国では、各国のモータリゼーションに伴い、カーナビも成長するが、ディスプレイオーディオ（DA）とスマートフォンナビや、スマートフォンの単体利用が多くを占めるものになるとみられ、さほど急激な伸びにはならないとみる。また、アジア圏のカーオーディオナビゲーション（AVN）はDA＋ナビカードのタイプが多くなるものと考える。

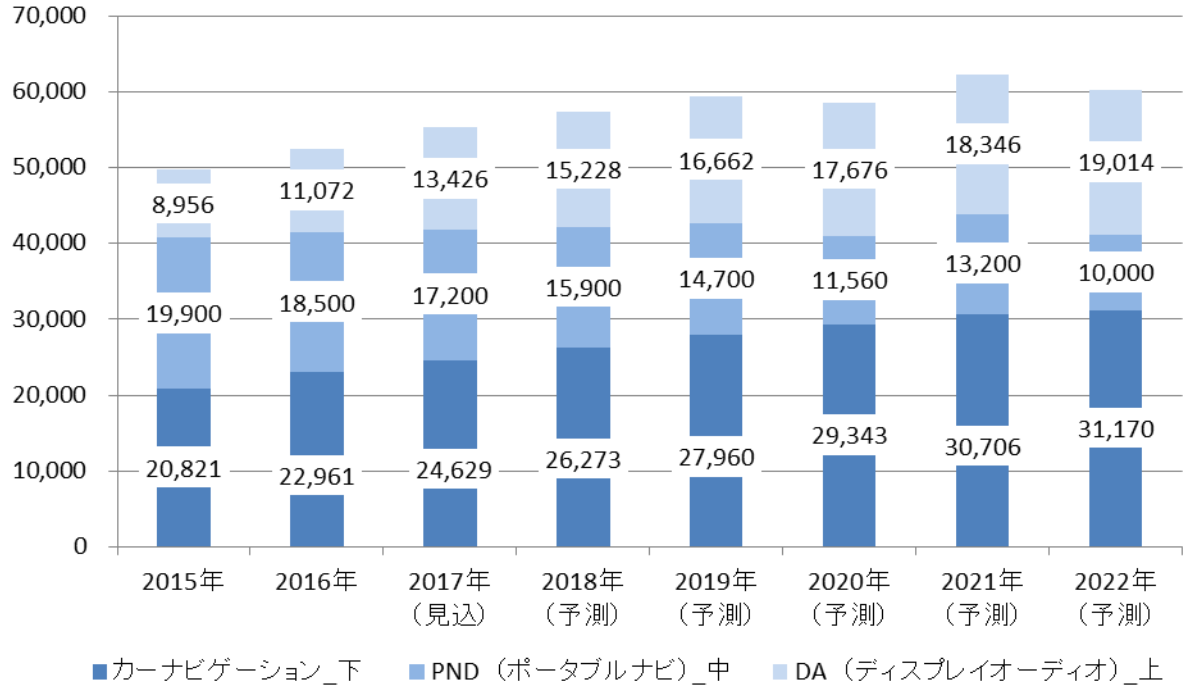
スマートフォンナビは、ある程度のカーナビ需要を侵食すると思われるが、欧米ではカーナビ市場はまだ伸び続けていることもあり、カーナビ普及の阻害要因にはならないものと考える。ただし前述したように、DIN カーナビのままではなく、スマートフォンと車載機との連携や e コクピットのような情報通信・表示システムに進化した上で市場が動いていく可能性が高い。

今後の車載情報端末は e コクピット、カーナビ、PND、DA、スマートフォンナビといった複数の種類の各々の製品が、各国の文化や言語、生活環境といった市場環境や特性を反映しつつ、地域別需要に適合しながら、共存していくものとみる。

Copyright © 2018 Yano Research Institute Ltd.

図 1. カーナビゲーション／PND／DA 世界市場推移と予測

（単位：千台）



矢野経済研究所推計

注1. 搭載台数ベース
注2. 2017 年は見込み、2018 年以降は予測値
注3. 通信機能のない HDD、SD、DVD ナビ、e コクピットを含む。
注4. e コクピットとは、センターディスプレイ、クラスタディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ（HUD）等を統合した車載 HMI（Human Machine Interface）システムである。
注5. DA（ディスプレイオーディオ）とはナビゲーション機能をもたない「ディスプレイ＋AV 機能」デバイスである。オプションのリアビューカメラを装着すれば駐車支援システムにもなる。またスマートフォンと連携させれば、スマートフォン上のアプリケーション（音楽配信、ナビゲーション、電話、メッセージング、SNS など）を DA のモニタ上で表示できる。

Copyright © 2018 Yano Research Institute Ltd.